

江戸の金魚のふるさとへ

水田や蓮田や畑が広がるのどかな田園に、赤い影が水面に揺れる金魚池。

そんな金魚池があちこちで見られた江戸川区は、古くからの金魚の名産地。

良質な水質と土質を背景に一大生産地として発展した江戸川区では、今でも

東京都唯一の金魚市場で毎週、威勢のいい掛け声とともにセリが行われています。

水の中をスイスイと優雅に泳ぐ、夏の風物詩。その艶やかな江戸川伝統の金魚を、

区ゆかりの絵師や工芸士もふるさとの風景として描くアート作品とともに

ひととき、涼をとりながらゆっくりとお楽しみください。

丸み豊かで
体高が立派!



泳ぐ姿が
優美です!

筋肉質で
丈夫と評判!



江戸川 リウキン のここがスゴイ！



誕生は約 50 年前！

紅白模様の更紗リウキンの中でも、身体全体に丸みがあり、泳ぐ姿に品格があり、丈夫なのが、堀口リウキン、通称江戸川リウキンです。堀口養魚場の先代、堀口篤次さんが完成させ、1965（昭和 40）年第 1 回全日本金魚品評会で総合優勝となる農林水産大臣賞を受賞。以来、何度も同賞を受賞した江戸川区発祥の名金魚です。



堀口リウキンを完成させた
堀口篤次さん

名金魚の陰に友情あり？

良質な水質や土質があっただけでなく、金魚池を頻繁に掃除する油替えや手入れを細かく行うなど、生産者の池まめ努力があってこそ誕生したのが江戸川リウキンでした。そして当時まだ若き生産者であった堀口篤次さんが、台風で大量のリウキンを失った時、良質なリウキンを譲ってくれたのが佐々木養魚場の佐々木清吉氏でした。



金魚池で掃除するお習え

江戸川金魚が丈夫な理由

優れた金魚づくりには、水質や土質、飼料、薬剤、道具など、さまざまな知恵と努力と工夫が必要となります。江戸川リウキンはもとより、江戸川金魚が丈夫になるのは、大釜で手間暇かけて煮込む、煮えさという飼料を与えることが大きく影響しているといわれています。



煮えさの様子

良質な金魚は選別が肝心

金魚を作るのに最も大切なのは親魚の選定です。色や形を選別しながら、上質な親魚から繁殖を進めます。デメキンなら眼、リウキンなら胴体、地金なら尾ひれ、朱文金なら色彩といった、品種ごとの特徴が選別のポイントになります。



質の高い金魚を生産するために欠かせない選別

金魚三大産地のひとつ！

歴史ある金魚の三大産地に数えられるのが、東京都江戸川区、愛知県弥富市、奈良県大和郡山市です。大和郡山はワキン、弥富はオールマイティと、産地により品種の傾向があります。江戸川区で伝統的に作られてきたのは、リウキン、デメキン、ワキン、キャリコ、朱文金の 5 種類でした。

DNA は埼玉そして全国へ

大変研究熱心で、江戸川リウキンを創出した堀口篤次さんのもとには、生前から教えを乞う生産者が少なくなく、その DNA と繁殖技術は、埼玉、茨城、千葉、弥富、長野と全国で受け継がれています。



創業文政 2 年「金魚の吉田」代表取締役
日本観賞魚飼育家協会会長 吉田信行さん

江戸川リウキンは 今も昔も別格です！

「同じリウキンでも江戸川産、埼玉産、弥富産と区分けしているのは、産地によって金魚の形がまったく違うからです。東京の金魚といえば堀口養魚場のリウキンが代名詞ですが、リウキンを極めたその姿は美の骨頂。昔から価値の高い高級品です。金魚の人気は衰えることがないですね。春の日本観賞魚フェアには毎年多くの入場者があり、近年は一般の方の出展が急速に増えています。ゲームで撃ち合いをするのは平気でも、金魚を飼い、金魚が亡くなり、涙がポロリと出る。そんな命の大切さを教えてくれる金魚は、昔から私たちの大切なペットなんだと思いますね」。

伝統の金魚を



1951(昭和26)年から続く、
船場の組合事務所で行われるセリ市。

支える元気人



ほぼ毎週木曜日にセリ市は行われています。



組合事務所が完成した62年経ちから掲げられている組合の看板

● 佐々木勝義さん <佐々木養魚場>

終わりのない世界だから 金魚づくりは面白い!

「生産者としてリュウキンやデメキンのグレードを高めなきゃいけない使命感を持ちつつ、品種改良には大変楽しさを感じています。祖父・清吉(?)が戦後作っていた柳出目も、父と復活させ市場にちょいちょい出しています。毎年失敗を繰り返しながら新しいものに挑戦しています。まあ、金魚は面白いからね。子供の頃から手伝っているうちに自然と家業を継いでいました」。

(佐々木養魚場)

堀口養魚場とともに古くから知られる老舗養魚場。現在金魚池は茨城県に移っていますが、江戸川区には金魚専門店があり愛好者注目の小売販売が行われています。勝義さんはお兄さんとともに金魚づくりを継がれています。



● 平賀範之さん <平賀養魚場>

堀口リュウキンが築いた 名声を絶やさないために。

「卵がふ化して、その出来がだいたい判断できる6月頃が一番緊張するよね。丸い形が特徴のリュウキンが細長いと、1年間ずっと落ち込みっぱなしです。温かくなると成長が早くなるなど気候にも影響を受けるし、同じことをしても同じにならないのが金魚の難しいところです。選別は金魚づくりの肝。まだまだ先輩方には及ばないけど、日々修行中です」。

(平賀養魚場)

錦鯉生産にルーツを持つ埼玉県鴻巣市の養魚場で、堀口養魚場の先代からも指導を受け着手したリュウキンは市場で高く評価されています。範之さんは現在、東京組合のセリ市場で、シブい声でセリを取り仕切るセリ人を担当。



● 堀口英明さん <堀口養魚場>

東京都淡水魚養殖漁業協同組合 代表理事組合長

東京のセリ市場に 出す金魚という誇り。

「昭和30年代にウナギが上ってくる用水路があったり、豊かな水源を持つ江戸川区は金魚の名産地でした。宅地化が進み今は現状維持が目いっぱいですが、東京は日本の金魚産業を率いてきた土地です。東京のセリ市場に金魚を出している以上は、下手なものは出せないという誇りが誰にもあります。そうした気概が江戸川区や近郊の金魚づくりを支えているんだと思います。11月までほぼ毎週木曜日に開催される市場は、売り買いの場であると同時に、若手もベテランも入り混じる、大切な情報交換の場になっています」。

(堀口養魚場)

江戸川区に金魚池を有し現在も生産を続ける、区内2軒となった歴史ある養魚場のひとつ。堀口英明さんは5代目です。先代の篤次さんは堀口リュウキン、通称江戸川リュウキンの生みの親です。



● 江戸川にある堀口養魚場



金魚に逢える

江戸川区のシヨップ



-  **東京サンマリン**
新大塚 3-2-8 電話 03-5343-0411
-  **つり堀金ちゃん**
新大塚 4-23-18 電話 03-3678-2722
-  **佐々木養魚場**
一ツ木 5-25-17 電話 03-3621-2826
-  **ギャラリー金魚道**
新大塚 5-25-10 電話 03-5675-6730
-  **中島養魚場**
新大塚 4-3-30 電話 03-3685-0077
-  **金魚の吉田(葛飾区)**
新大塚 5-25-14-7 電話 03-3671-0550

※このページの掲載を断る一歩は断る断つていません

なるほど！金魚と江戸川区の深い関係

江戸川区の金魚年表

- 16世紀初頭 室町末期に中国から日本へ金魚が伝わる
- 17世紀後半 元禄年間(1688～1703)以前に江戸で金魚養殖が始まる
- 19世紀初頭 文化・文政年間(1804～1829)に江戸で金魚が一般にも普及
- 1897(明治30)年 東京金魚商組合が設立される
- 20世紀初頭 明治末頃より本所や深川から金魚養殖が江戸川区に移転
- 1923(大正12)年 関東大震災以降、江戸川区の金魚養殖が盛んになる
- 1940(昭和15)年 最盛期区内23軒の養殖業者が金魚5000万尾を生産し海外に輸出
- 1945(昭和20)年 大戦により衰退した金魚養殖が復活し、江戸川区は全国有数の金魚産地になる
- 1947(昭和22)年 カスリーン台風により、都内の金魚池は数軒を除きほぼ壊滅
- 1949(昭和24)年 東京都淡水魚養殖漁業協同組合が設立される
- 1950(昭和25)年 江戸川区船堀に現在の組合セリ市場が完成する
- 1954(昭和29)年 東京の金魚生産業者31軒中、3分の2が江戸川区となる

- 1956(昭和31)年 ポリエチレン袋に酸素を封入する輸送方法が本格的に使用される
- 1957(昭和32)年 金魚まつりの前身となる「江戸川区特産金魚品評会」が始まる
- 1959(昭和34)年 伊勢湾台風により打撃を受けた愛知県・弥富組合に、翌年東京組合が親琉金を送る
- 1965(昭和40)年 第1回全日本金魚品評会で堀口養魚場の江戸川リュウキンが農林大臣賞受賞
- 1969(昭和44)年 地下鉄東西線が開通、区内の養殖業者が千葉や埼玉に移転
- 1972(昭和47)年 江戸川区の養殖業者が17軒に(1500万尾生産)
- 1979(昭和54)年 江戸川区の養殖業者が6軒に
- 1990(平成2)年 日本観賞魚振興会(本部江戸川区)が3月3日を金魚の日と制定



日本観賞魚フェアの様子

現在

江戸川区の養殖業者は、養魚池を他県に移した1軒を含む計3軒となりましたが、その品質はいまでも日本トップクラス。毎年春に船堀で開催される日本観賞魚フェアには3日間で述べ3万人の金魚ファンが集い、金魚のふるさとらしい賑わいに包まれます。

こぼれ話

●お寺の土地も金魚池！

金魚の養殖には広大な土地が必要で、昔は寺の所有地を借り受け、金魚池を作る業者が少なくありませんでした。現在ある親水公園の水辺の土地も、多くが金魚池だったとか？！



●金魚の家が鯉の住み家に

大戦中の日本では鯉を食用にするため、江戸川区の金魚池も鯉に占領されたとか。大空襲では金魚池に飛び込み、大勢の人が命を救われました。

●台風や水害との闘い

土地が低い江戸川区では、台風や水害とも闘いながら金魚養殖が行われていました。昭和22年のカスリーン台風では堀口養魚場の大切なリュウキンが大量に流出。残った数尾をもとに苦勞の末に完成したのが江戸川リュウキンでした。



●香港でも江戸川金魚が大人気

昭和60年代には、質のいい金魚を求めた香港の需要が伸び、東京からも上質な更紗リュウキンが大量に輸出され、養殖業者も忙しさだったといひます。